こどもの城ニュース

KODOMO NO SIRO NEWS

2003・11・15 NO.144

発行／〔こどもの城〕広報部☎03-3797-5674
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1

“歓”さつしよう！

手前の低い木は、後ろの30年くらいたった木を根元近くから切って、3年ほどたった木です。緑を守ろうといって、木を切ることが悪いことのようにみられていますが、木は古くなるとたおれるだけです。人間が手を加えて切ってあげると、そこからまた芽が出てきます。

たおした木はマキにしたり、炭にしたりと有効に使え、再生した木は地面に水をためるのに役立ちます。人間の生活の周辺には、共存する自然が必ずあるのです。

（横浜・こどもの国）

豊かな“育ちあい”めざす

夏休みに小中学生対象に「保育体験ボランティア」

以前は、兄弟・姉妹がいたり、地域で子ども同士の仲間遊びができたりして、大きい子が小さい子のめんどうをみる、子どもなりの“育ちの場”がたくさんありました。少子化が進むなかで、子どものときに“小さい子”といっしょに生活し、育ちあう機会が少なくなりました。

〔こどもの城〕の保育研究開発部では、小学5年生～中学生に幼児とのふれあいを体験してもらおうと夏休みを利用して「保育体験ボランティア」の活動を行っています。小中学生は、初めて身近に接する幼児にとまどいも多いようですが、数年前の自分の姿を思いうかべながら、いっしょに遊んだり、身の回りの世話をしたり――“自分以外の子ども”とふれあう体験をしています。

「お兄ちゃん、作って！」「こうやればいいじゃない」

小中学生と幼児のふれあいの場を作る

小中学生の「保育体験プログラム」がスタートしたのは10数年前のこと。〔こどもの城〕の幼児グループの卒業生に呼びかけて、ささやかに始まりました。最近は、楽しかったからと、次の年に友だちをさそって参加する小中学生もいます。今年の夏休みも20人が参加。1日だけの人もいましたが、平均すると一人2～3日、多い人は5日間の保育体験をしました。

核家族化が進み、子どもの数も少なくなってきて、子どもたちがいろいろな人（同い年の子、年上の子、年下の子、近所の大人など）とふれあいながら大きくなることが少なくなってきました。そこで、小中学生と幼児がふれあう場を作ろうと始めたのが「保育体験ボランティア」です。

“スライム”ってなつかしいなあ

「お姉さん、おねがい」「こうやればいいのかしら」

“幼児”を体験的に理解する

幼児と保育する大人との間で行われている保育の場に小中学生が加わることで、異なった年齢の子ども同士（幼児と小中学生）がふれあい・交流する場面が生まれます。

幼児からみると、小中学生は年齢の近いお兄さん・お姉さん。大人に囲まれて育っている幼児にとっては、あらけずりな遊びの魅力、ぶっきらぼうな言葉に秘められたやさしさ・あたたかさに接することが、しんせんな喜び。お兄さん・お姉さんの姿に、これからの自分の姿をかさねているようです。「幼稚園が終わりになったら、お兄さんの小学校に行くんだよね」と、期待に胸をふくらませる子どももいます。

小中学生は、幼児とかかわることで幼稚園・保育所時代の自分の姿を思い出し、自分の存在や成長をすなおに認める機会になっているようです。かつての自分が、いろいろな人の愛情のもとで育ったことに気づく小中学生もたくさんいます。「自分もそうだったけれど、小さい子の会話はおもしろいと思った。ぼくに向かって一生懸命に話しかけてくる。よく聞くと意味のない話だけど、しっかり聞いてあげると喜ぶんだなと思った」と中学生の男子。幼児期の子どもを“はだ”で感じて理解していくようすがうかがえます。

散歩でみつけた「これ、なんだろう？」

名前を覚えて、呼んでくれた

《おもしろかったこと、うれしかったこと》は――、いっしょに遊ぼうとさそってくれた／話しかけたら、お話してくれた／作ったものを一回一回みせてくれた／小さい子と私の考えの違いがおもしろかった／作った箱をとても喜んで使ってくれた／名前を覚えていて、呼んでくれた／本を読んであげたとき、“もう一回”といわれた――など。

《困ったこと、おどろいたこと》は――、なにを言っているのか、しゃべる言葉が分からなかった／楽しく遊んでいたのに、いきなり“ママー”と泣きだした／みんなが飛びついてきて下じきになり、苦しかった／片付けに協力してくれなかった／ひっかかれた――など。

幼児との出会いのなかで、小中学生は、喜びやとまどいなど、いろいろなことをはだで感じ取っていったようです。保育のスタッフは、小中学生が幼児の遊びのなかに入っていけるように、さりげなく声をかけたり、遊びにさそったりするなどのアドバイスをしています。

2歳児といっしょに給食。ちょっとはずかしいな

終了後のフォローにも配慮――活動記録などを送る

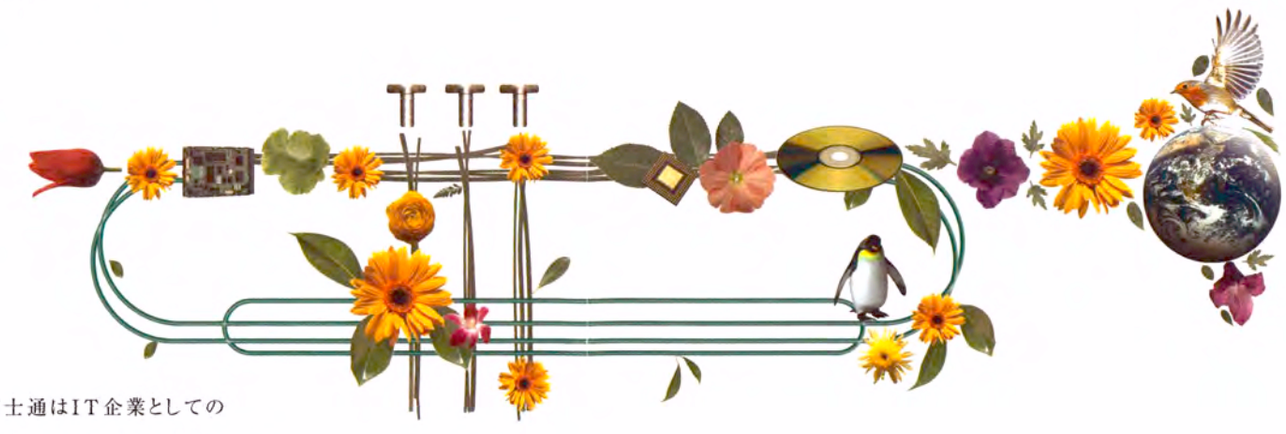
保育を体験して得たことを家庭や学校などの日常生活で生かしてもらおうと、終了後のフォローにも力を入れています。

一人ひとりの参加者に、〔こどもの城〕からの手紙（本人と保護者に）をそえた活動記録とスナップ写真、そして学校へ報告できるように保育体験ボランティア活動の概要をまとめた手紙（提出する、しないは自由）を送っています。

保育体験のようすを自由研究のレポートとして学校へ提出する小中学生もいます。「子どもたちの体験として、今後に生かされるたいへんよい活動であると同時に、子どもが自信を持ったり、深めたりする場になっていると思う」と、学校から感想を伝えてくれることもあります。

山田道子保育研究開発部長の話＝小中学生のときから、保育を体験することは、次世代育成支援のうえからも意義があるのではないでしょうか。私たちのささやかな「保育体験ボランティア」の活動からも、幼児と小中学生が互いに育ちあう効果は大きいと実感しています。それぞれの出会いが“人”としての存在を認めあい、豊かに育ちあうことにつながっていくのではないかと思っています。

人と地球のハーモニーを奏でたい。



人と自然が調和する持続可能な社会の実現をめざして。富士通はIT企業としての先進テクノロジーと、地球環境の未来を考える創造力を原点として、製品からソリューション、マネジメントまで、あらゆる領域にわたる環境活動の挑戦を続けています。

すべてをグリーンに。

FUJITSU

THE POSSIBILITIES ARE INFINITE

全国から52人が参加して「こどもの城児童厚生員等実技指導講習会」開く

アレンジ(工夫)して“遊び”を“つくる”

対象年齢、場所、人数、安全性、ねらいなどを考慮して

「遊びをアレンジする～発想・創造・実行力をみがく」をテーマに、平成15年度第2回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会が、10月22～24日に開かれました。北海道から沖縄県まで全国から52人の児童厚生員等が参加。講師は、こどもの城職員。アレンジの素材として、スポーツ遊びと映像遊びを取り上げ、遊びのプログラム作りの経験を生かした実践的な講習が行われました。

スポーツ遊びでは、“移動する動き”を考えることからスタート。“はう”“歩く”“走る”“跳ぶ”の4種類に分けて、それぞれの動きでどのような動作があるか考えました。例えば“歩く”――ふつうに歩くだけでなく、後ろ歩き、横歩き（カニ歩き）、つま先立ちで歩く、かかとで歩く、スキップ、ドシンドシン歩く、しのび足など、いろいろなアイデアがでてきます。動物の動きをまねした歩き方（模倣）もあります。

どれも“歩いて移動する”動作ですが、速く歩けるもの、なかなか前へ進まないもの、よく動かす体の部位など、それぞれに特徴があります。“移動する動き”を変化させるだけで、遊びを大きくアレンジすることができます。

参加者全員が体育室で安全に遊べるものという前提で、一般的な鬼ごっこ〈つけ鬼〉のアレンジを考えることにしました。ケンケンで動くことでスピードを抑える、模倣の動きを取り入れて動きを制限するなど、見直したばかりの“動き”を思い浮かべていろいろなアイデアが出されました。

講師から、別の視点から動きを制限するアイデアも紹介されました。動き回って鬼ごっこするのは半分の人で、残りの人は障害物（石）となって床に座り、その間をすり抜けて鬼ごっこ。石にぶつからないように注意するので、動くスピードは遅くなりますが、急に止まって動きの方向を変えるという動作が多くなるので、運動の質も量も保つことができます。石の人も、なんとなく参加している気分になります。限られた場所で、運動の量や質を減らすことなく大勢で楽しめるようにするアレンジの一例です。

自分たちで考えた〈しっぽとり〉で遊んでみて、アレンジの結果を検証

鬼ごっこの一種である〈しっぽとり〉をアレンジする宿題も出され、5グループに分かれて検討。2日目の午前中に、グループごとにアレンジした“新しいしっぽとり”を発表。みんなで意見を出し合って、アレンジの方法論を考えました。

紙と筆記具があればどこでもできる〈くるくるアニメ〉

最後に、子どもたちが安全にラグビーを楽しめるように考案された〈タグラグビー〉――〈しっぽとり〉の要素を持っている――なども紹介。体を動かす遊びのなかにはスポーツの要素があるので、遊びをとおしてスポーツの楽しさ、喜びを体験できるように、遊びに動きを取り入れるアレンジを学びました。

映像遊びでは、“動いて見える”“写す”の2つに焦点をあてて、どのようにアレンジして映像遊びのプログラムにしていったか、そしてさらにアレンジを加えて子どもの遊びの場面で活用していく方法を考えました。

“動いて見える”では、コマ撮り（アニメ撮影）ができるビデオカメラを使って2枚の絵を交互に撮影して作る〈ぱたぱたアニメ〉を取り上げました。2枚というのは、動いて見える映像を作りだす最小限の数。

さらに、〈ぱたぱたアニメ〉のような映像機材を使わないでできるプログラム〈くるくるアニメ〉も紹介。専用の用紙を作ることで、子どもたちが簡単に楽しめるように工夫をしていったこと、“動いて見える”ことを体験してもらうことを目的にしているので、工作の要素を絞り込んだことなど、一つのプログラムを作り上げるためにさまざまな工夫（アレンジ）をしてきたことなどを説明しました。

こどもの城となかまたち

〈くるくるアニメ〉は、映画発明以前に考案された視覚がん具をヒントに作られたプログラム。重ねた2枚の絵（紙）のうち上の紙だけをカールさせて、指などで上の紙をのばしたりカールさせたりすることの繰り返しで、上下の絵が交互に見えるようにしたもの。専用の用紙でなくても、細長い紙があればどこでもできるプログラム。

この〈くるくるアニメ〉をアレンジして、遊びのなかで活用する方法をみんなで考えました。絵本の読み語りや紙芝居などのなかで“動き”のあるものとして使う、ゲームのヒントや暗号、課題の提示などに使う――数々のアイデアが提案されました。実際に試してみる時間はありませんでしたが、一つのプログラムがいろいろな形で活用できるという可能性を考えることができました。

11月22～24日 あそびのおもちゃ箱

各地の大型児童館のボランティアも参加

人形劇などの公演とワークショップ

パネルシアター、絵本の読み語り、紙芝居、影絵、人形劇そしてサンバのグループ――〔こどもの城〕で定期的に活動している女性と青年のボランティアのグループが合同で公演・ワークショップを行う「あそびのおもちゃ箱」が、11月22～24日にフリーホールで開かれます。

今年は、「福井県児童科学館エンゼルランドふくい」「ぐんまこどもの国児童会館」「神戸市総合児童センターこべっこランド」のボランティアも参加して公演を行うことになりました。さらに、「栃木県子ども総合科学館」のボランティアが公演の手伝いにかけつけてくれる予定です。

平成12～14年に行われた、大型児童館で活動するボランティアの交流イベント「じょいんフェスティバル」を契機に生まれたボランティア同士の交流の成果の一つです。他館のボランティアは22日夕方に〔こどもの城〕に集合して、プレイホールに泊まり込んで公演の準備とメンバー間の交流を行います。

公演のスケジュールは下記のとおり。公演の合間には、軍手の“トコトコ人形”を使って、遊びます。

■公演スケジュール■

【22日】
○1時＝影絵（女性）「うたのアルバム」「ブレーメンの音楽隊」
○2時30分＝紙芝居（女性）「ごきげんのわるいコックさん」ほか
○4時＝絵本（女性）「大型絵本　きょだいな　きょだいな」ほか

【23日】
○11時30分＝人形劇（女性）「大きなかぶ」
○1時＝エンゼルランドふくい「福井県坂井郡の民話」「ペープサート」
○2時30分＝ぐんまこどもの国「大型紙芝居・絵本」（オカリナのBGM）
○4時＝こべっこランド「人形劇・イタズラおばけのバケバケ大作戦」

【24日】
○11時30分＝パネルシアター（青年）「スイミー」ほか
○1時＝絵本＋パネルシアター（青年）「ぐりとぐら・はらぺこあおむし」ほか
○2時30分＝サンバ（女性）「サンバであそぼう」
○4時＝人形劇（青年）「マックロー人形劇場」

〔こどもの城〕の講座・クラブ

12月5日午前10時から先着順に受け付け

平成16年1月から始まる〔こどもの城〕の講座・クラブの受講生を募集します。募集するコースの内容・開講日など、詳しいことはアトリウム総合案内講座・クラブ受付係【☎03-3797-5666】へお問い合わせください。

12月5日午前10時から、先着順に受け付けします。

〔こどもの城〕に「防火優良認定証」

このほど消防法が改正され、一部を除いて「適マーク」が廃止され、新しく「防火対象物定期点検報告制度」が設けられました。〔こどもの城〕は、3年間火災予防に関する事項を適性に順守しているとして「防火優良認定証」が交付されました。

〔こどもの城〕には、自衛消防隊があり、いざというときに備えています。先日行われた渋谷区の自衛消防訓練審査会に女子隊が参加。敢闘賞を射止めました。（写真）

サタデー・ラボラトリースペシャル　12月13日

11月26日から参加受け付け

体験!! パントマイム～手で鳥やカタツムリを表現

12月13日の「サタデー・ラボラトリー」はスペシャルプログラム。パントマイミストのCHiCAさんを特別講師に招いて「体験!! パントマイム」を行います。

パントマイムは、体を使って人や動物のしぐさや動きなどを表現するもの。モノマネと違うところは、言葉を使わないこと、生き物だけでなく“もの（物体）”も動きで表現することです。今回は、かんたんな練習から始めて、手を使って鳥やカタツムリなどを表現するパントマイムにチャレンジ。低学年も楽しむことができます。

約1時間のプログラムで、対象は小学生～高校生。1時、2時30分、4時の3回。定員は各回20人。当日受け付け（先着順）のほか、各回10人まで11月26日から事前に参加受け付けします。

お問い合わせ・申し込みはプレイ事業部【☎03-3797-5661】へ。

「フィリップ・ブリアッソの青少年向けダンスワークショップ」開く

体で感じたことを動きで――ダンスの基本体験

APAS（エイパス＝青山劇場ワークショップ＆フォーラム　プログラム）シリーズの一つ「フィリップ・ブリアッソの青少年向けダンス・ワークショップ」が青山劇場Aリハーサル室で10月26日に開催されました。小学生から二十歳前後の人まで約30人が参加し、体を使って表現するダンスの基本を学びました。

ダンスは形ではなく、体で感じたことを動きで表現するもの。頭の重さを意識する練習から始め、体の内から押し出すような動きの練習、そして小さな動きから大きな動きへと広げていき、最後はそれぞれに4つの動きを組み合わせたダンスを作り上げました（写真上）。

12月17日に青山劇場で「カンパニー・モンタルヴォ＝エルヴェ」の3つのダンスワークショップ

12月17日には、カンパニー・モンタルヴォ＝エルヴェの3つのダンスワークショップが行われます。いずれも対象は一般（25人）で、受講料は2,000円。会場は青山劇場Aリハーサル室。

□Chantal LOIALのアフリカンダンスワークショップ＝1時30分～3時
□Walid BOUHMANIのヒップホップダンスワークショップ＝4時～5時30分
□Dominique HERVIEUのコンテンポラリーダンスワークショップ＝7時～8時30分

※ワークショップの参加希望者は、希望プログラム／住所・郵便番号／氏名（ふりがな）／年齢／連絡先（電話、ファックス、e-mail）を記入の上、郵送またはファックス、e-mailでお申し込みください。ご案内をお送りします。電話での受け付けはしていません。
〒150-0001　東京都渋谷区神宮前5-53-1 青山劇場APAS（エイパス）係／ファックス＝03-3797-5770／e-mail＝APAS@aoyama.org
★お問い合わせ＝青山劇場（担当＝小野、正木）☎03-3797-5678

11・12月のBスタジオの催し

■11月16日　手作り楽器のワークショップ「フィルムケースの笛」
1時30分、3時30分
フィルムケースを使って2種類の“鳥笛”を作ります。小学生1年生以上。定員30人。15分前から会場で受け付けします。

■11月23・24日、12月14日
こどもの城映画劇場特別企画『ルドルフ　赤鼻のトナカイ』
11時35分、1時35分、3時35分

"Rudolph The Red-Nosed Reindeer" (c) and (R) The Rudolph L.P./"Rudolph The Red-Nosed Reindeer" animated program (c)1964, renewed 1992 Classic Media, Inc. All right reserved.

“赤鼻のトナカイ”のおはなしを精巧な人形アニメーションで描いた作品。ワクワク、ドキドキ、ハラハラのストーリー。ミュージカル・シーンを織りまぜた、幼児から大人まで家族みんなで楽しめるエンターテインメント作品です。アメリカでは、64年に放送されて以来、クリスマスが近づくと毎年のようにテレビで放映され、高い人気を集めています。今回はビデオ（日本語吹き替え版）で上映します。協賛：エスバッキ。
原題＝Rudolph The Red-Nosed Reindeer
（64年／55分／アメリカ）

全国の児童館の仲間が作った折り紙作品十七点を展示

「全国児童館おりがみ作品展」が、十月二十五日から十一月十六日まで〔こどもの城〕ギャラリーで開かれています。今回のテーマは「おはなしの世界」。絵本やアニメなどでだれも知っているおはなしのほか、地元に伝わる民話を題材にした力作十七点が展示されています。

FC東京のスタッフが来館してサッカークリニックを開催

体育の日の三連休に体育室で行われた「サッカーフェスティバル二〇〇三」には、Jリーグ・FC東京のスタッフが来館してサッカークリニックを開催。プロのコーチがさまざまなテクニックを指導。サッカーの楽しさ、おもしろさをおもいっきり体験しました。

平成16年度「児童福祉週間」標語募集中

子どもや家庭について社会全体で考えること、子どもの健やかな成長について社会的な関心を高めることなど目的に、毎年「こどもの日」からの1週間を「児童福祉週間」として、全国各地でさまざまな取り組みをしています。この「児童福祉週間」の標語を募集しています。

標語のテーマは、下記の趣旨を簡潔に表現していて児童福祉の理念を啓発するもの。どなたでも応募できます。自分で創作した未発表作品。応募作品は返却しません。なお、著作権は主催者に帰属します。

選定委員会で最優秀作（厚生労働大臣賞）1点を選定。平成16年度児童福祉週間中央行事「こいのぼり掲揚式」で賞状・記念品を贈呈。「児童福祉週間」の催しで幅広く活用します。

□平成16年度「児童福祉週間」の主旨（要約）＝子どもや家庭を取り巻く環境は、少子・高齢化が急速に進むなかで大きく変化しています。とりわけ、子ども同士や異世代間で交流する機会が減少して、子どもの健やかな成長が妨げられています。社会全体で子どもや家庭について真剣に考えていくことが必要になっています。7月には「次世代育成支援対策推進法」および「児童福祉法改正法」が成立し、国や地方公共団体、企業などが一体となって次世代育成支援と推進し、家庭や地域社会における“子育て機能の再生”に取り組むこととなっています。

□応募方法＝はがきによる応募：はがき1枚に1点（何点でも応募可）。郵便番号、住所、氏名、フリガナ、年齢、職業、電話番号を記入してください。／インターネットによる応募：こども未来財団HPの応募フォームにしたがって入力してください。

□応募先＝〒104-0061　東京都中央区銀座3-11-18　（財）こども未来財団「標語募集」係　http://www.kodomomiraizaidan.or.jp/

□締切り＝11月28日（必着）
お問い合わせは、（財）こども未来財団総務部総務課【03-5550-9448】へ。

■青山劇場　☎03-3797-5678　http://www.aoyama.org

インフォメーション INFORMATION

青山劇場

●つかこうへいダブルス2003
「幕末純情伝」（11月14～23日）／「飛龍伝」（11月26～11月7日）
▽S席＝8,500円、A席＝7,500円
（問）03-3372-6207

●ファニー・レディ～ゆかいなご夫人たち～
▽12月9日▽8,000円
（問）03-3201-8116

●フランス・ダンス・03「パラディ（楽園）」
▽12月19日▽S席＝4,000円（当日＝4,500円）、A席＝3,000円（当日＝3,500円）
（問）03-3797-5678

●アニークリスマスコンサート
▽12月20・21日▽S席＝5,000円、A席＝4,800円　（問）03-3498-9999

●サクラ大戦・帝国歌劇団・花組　2004年新春歌謡ショウ
▽平成16年1月2～5日▽SS席＝9,000円、S席＝7,000円、A席＝4,000円
（問）03-5465-1030

●SHOW UP MUSICAL「Doki・Doki・Night」
▽1月15～18日▽S席＝8,500円、A席＝7,000円　（問）03-3201-8116

青山円形劇場

●欲望という名の電車
▽11月7～30日▽6,500円
（問）03-3201-8116

●ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン
▽12月4～26日▽6,000円
（問）03-3797-5678

●第16回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「とびこむ絵本3～クルクルミチルの青い鳥」
▽平成16年1月2～7日▽2,800円
（問）03-3797-5678

●デーモン木暮の邦楽維新 Collaboration 青山本場所
「花鳥風月」（1月10～12日）
「風林火山」（1月13～15日）
▽4,800円　（問）03-3797-5678